

時代に応じた安全基準

1. 自動車排ガス規制の進歩

去る9月23日にカリフォルニア州のニューサム知事は、2035年までに州内で販売されるすべての新車を排ガスを出さない「ゼロエミッション車」にすることを義務付けると発表した¹。それに先立ち、イギリス、フランス、中国が2040年までにガソリン車やディーゼル車の製造・販売を禁止する意向を表明していた²。低燃費を誇るハイブリッド車もすでに時代遅れになりつつある。自動車排ガス対策は折々の社会的要請によって前進してきた。そのことがまた新商品開発を促して市場を活性化し、その産業を育成してきた。アメリカがそれらの規制をリードしていったが、アメリカ市場への自動車輸出を目指す日本やヨーロッパ諸国も、歩調を合わせて同等の規制を施行していった。もっとも画期的であったのは、1970年のマスキー法、加鉛ガソリン禁止であり、以降の光化学スモッグ対策、燃費規制などが行われ、2000年にはさらに厳しい排ガス規制が施行された。現在は、もはや排ガスを出す車の時代が終わり、市場は電気自動車 que けん引する様相を呈している。

これは、過去の規制基準がどんどん塗り替えられて行って、規制レベルを厳しくして、生活環境を改善していくことが当然の成り行きだという歴史を示している。

2. 原発

原発は、1970年ころに本格的な建設が始まり、福島第一原発事故の時点では、日本で54基が稼働していた。事故直後に、被ばくを心配する地元被災者への福島市における日本学術会議緊急講演会で、原子核研究者の柴田徳思氏は、次のように話している。

年間20ミリシーベルトという（被ばくの）数値は、この区域に50年住んでいると蓄積被ばく線量が1シーベルトになるという値だ。50年住むとがんになるリスクが5.5%増えるということになる。1年にするとそのリスクは約0.1%増、つまり放射線被ばくによって毎年亡くなる人が1,000人に1人増えるということだ。ただ実際に影響があるのは土の中にあるセシウム134と137で、これらの放射能は年々減っていくので、毎年20ミリシーベルトという被ばく線量がずっと続くわけではない。50年間で4分の1くらいになるとみられる。従ってがんで亡くなる人が増えるのは、1,000人に1人よりさらに少なく、1年あたり1万人にのうち3人ということになる。（中略）喫煙によって増えた分と同じリスクを、放射線を被ばくした場合にあてはめると、年間32ミリシーベルトの放射線を被ばくしたときのリスクと同じということになる。「計画的避難区域」に住んで年間20ミリシーベルトの放射線を被ばくした場合のがんで亡くなるリスクは、喫煙のリス

¹ 「米加州、ガソリン車禁止へ」『日本経済新聞』2020年9月24日夕

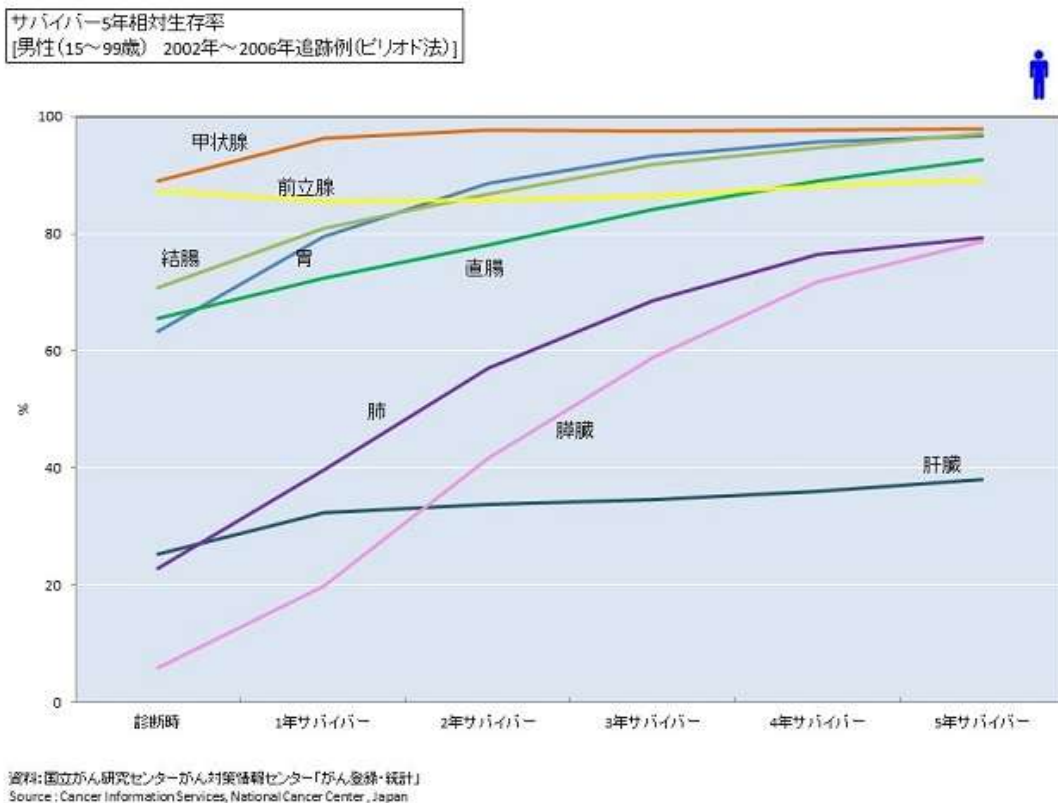
² 「中国、ガソリン車禁止へ」『日本経済新聞』2020年9月12日

クより多少小さいくらいということだ³。

この放射線被ばくによるガン死の確率推計の正確さはここでは問わない。しかし、喫煙によるガン死のリスクと比較しているところを見ると、禁煙者が多数派を占めるようになった現代の推計ではなさそうである。また、ガン患者の生還率が近年急速に上昇していることを勘定に入れているかどうかも疑わしい。たとえば、近年はがんに罹患しても肝臓がん以外のガン患者が5年間生き延びていれば、その後5年間生き延びる確率は80%以上ある（男女とも。次ページの図）。「がんにかかったと思ってあきらめなさい」という基準は当てはまらないであろう。

原発建設初期の1970年における0歳児の平均余命は男69歳、女75歳であった。2018年はそれぞれ81歳、87歳である⁴。この講演者の想定する生命に関する基準は、相当に時代遅れなのではないか。

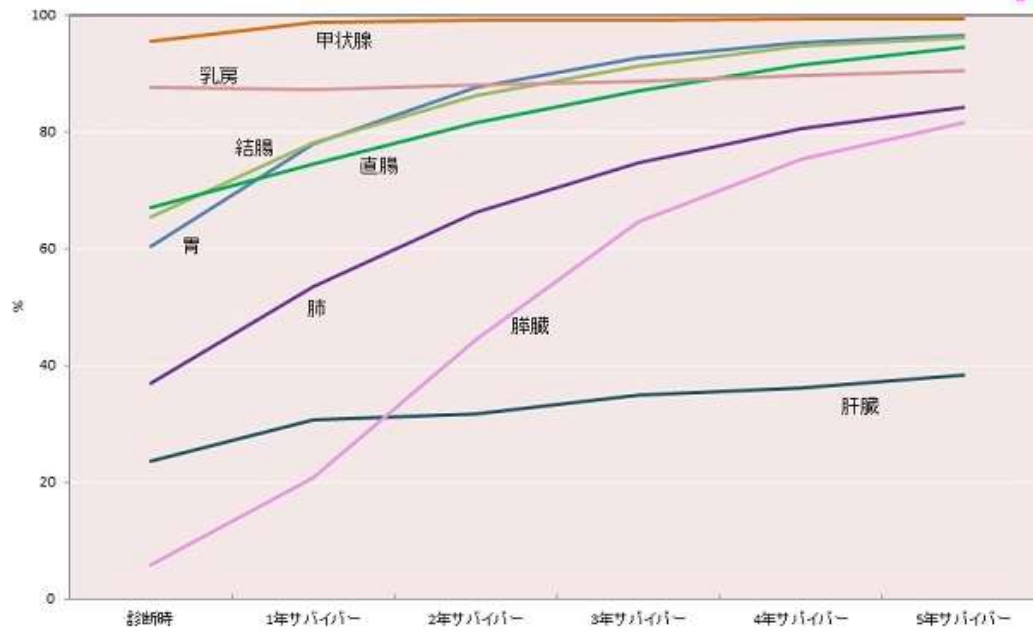
そして何よりも本質的な問題は、原発による受益者が被災者の生命について裁定を下す権利はないということである。そして、私たちは新しい時代に見合った技術革新と安全基準を要求する権利がある。



³ 緊急講演会「放射線を正しく恐れる」(2011年7月1日、日本学術会議主催) 講演から 掲載日: 2011年7月15日
https://scienceportal.jst.go.jp/columns/highlight/20110715_01.html

⁴ 「主な年齢の平均余命の年次推移」厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life18/dl/life18-09.pdf>

サバイバー5年相対生存率
 [女性(15~99歳) 2002年~2006年追跡例(ピリオド法)]



資料: 国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」
 Source: Cancer Information Services, National Cancer Center, Japan